

# 株式会社 稲庭うどん小川

## 令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰 輸出・国際局長賞 受賞!



ゆぎわのまち・ひと・しごと

# おらがしごと

農林水産物・食品の輸出に取り組む事業者を表彰する「令和5年度輸出に取り組む優良事業者表彰」において、株式会社 稲庭うどん小川（代表取締役社長：小川 博和）が『農林水産省輸出・国際局長賞』を受賞しました。



令和5年12月12日に開催された表彰式の様子。写真左から小川博和代表取締役社長、水野正義輸出・国際局長。

## 湯沢、稲庭の名を世界の市場へ

「輸出に取り組む優良事業者表彰」は、日本の農林水産物・食品の輸出促進を図るため、輸出に取り組む事業者のうち、特に優れた事業者に対して贈られるものです。

株式会社稲庭うどん小川は、県や大学と連携し、ビーガン（完全菜食主義者）など、食の多様化に対応した植物由来の麺つゆを開発したことや、商品の特徴を視覚化した海外向けのパッケージデザインにリニューアルしたことなどが評価され受賞しました。

同社は、2016年から本格的に輸出に取り組む、2023年には、県内の加工食品事業所6社で構成された「秋田県加工食品輸出拡大協議会」を設立。他業者との相互協力により、輸出額、輸出量を順調に増やしています。小川博和代表取締役社長は、「エントリを薦めてくれた仲間や支援してくれる多くのかたがたのサポートがあったの受賞。人の輪が広がって、さまざまなチャレンジをさせてもらっている。人とのつながりを大切にしながら、今後も意欲的に海外販路の拡大に取り組みたい」と話してくれました。

また同社は、持続可能な開発目標「SDGs」達成に向け、優れた取り組みを行う企業として「あきたSDGsアワード

2023」を受賞。製造工程で生じる切れ端を原料にしたアップサイクル発泡酒の開発や、切れ端を高齢者福祉施設へ寄贈するなど、廃棄ロスの削減を目指した活動が評価されました。小川選子専務取締役は「切れ端とはいえ、こだわって手作りしているうどんの廃棄を減らしたいという思いで、再利用に取り組みました。これからも、湯沢、稲庭の名を、世界に伝えられるような取り組みをしていきたい」と話してくれました。



写真左から、小川選子専務取締役、小川博和代表取締役社長